

校長室便り
シンフォニー
響きあうこころ

令和3年(2021年)12月23日(木)

第4号

校長 布川 勝也

能力伸長・生田メソッド=高い目標×文武両道・文理両道×自学自習×協働×ＩＣＴ
○「不確実な時代」を確かに生き抜く「主体的な意志のある自立した『個』」の育成
○「複雑な時代」を解き明かす「協働」の前提たる「主体的な意志のある自立した『個』」の育成

能力伸長・生田メソッド「年末版」

「高い目標」を設定し、そこに向かって行くことで能力は伸長します。大学進学の目標であれば、第一志望校を高く設定するということです。第一志望貫徹は第一志望合格を保証するわけではありません。しかし、第一志望を貫徹しなければ第一志望に合格することはありませんし、第一志望を貫徹することで皆さんの能力は引き上げられます。(東大第一志望の早慶上理合格者、早慶上理第一志望のG M A R C H 合格者は少なくありません。)

そして今まさに、受験生は第一志望を貫徹しようとしています。

受験生へ

【第一志望貫徹】

第一志望校の模試判定、ほとんどの方は最終の模擬試験でも芳しい判定にはならないかと思いますが、落ち込んではなりません。だからこそ、第一志望なのです。ここからが勝負と心得てください。現役生が伸びるのはここからです。焦りは禁物です。焦ってしまうと勉強に集中できなくなり、心を落ち着かせるために、漢字の書き取りにたとえるならば、もともと書ける漢字を何回も書き続けるようになります。ですから、大らかな気持ちで、できないことを一つずつ少なくしてください。できることを一つずつ増やしてください。大学入試問題はうろ覚えでは得点できません。得点できたとすれば、それは確率・偶然の結果であり、うろ覚えのお陰ではありません。

しかしながら、うろ覚えは何も知らないよりはマシです。何も知らない状態から「確かな理解」に到達するよりも「うろ覚え」からスタートした方がはるかに短い時間で「確かな理解」に到達できます。

受験生は今日(ヨニチ)まで一生懸命に勉強してきました。ですから、皆さんの頭の中は「確かな理解」と「うろ覚え」でいっぱいのはずです。この「うろ覚え」を一つずつ、「確かな理解」に換えてください。大らかな気持ちで。大丈夫。自分を信じて。「自信」とは自分を信じることです。現役生は受験日程に入ってからも、最終戦まで伸び続けます。一戦ごとに強くなった方の勝ちです。自分を信じて大らかな気持ちで猛勉強してください。(早寝早起き、睡眠確保も実行してください。)(第一志望校だけ受かったという人もいますよ。)

次に2年生。(1年生もすぐ1年経ちますよ。)

【第一志望宣言】

第一志望を高く設定してください。そして、ただちに第一志望校の過去問を眺めてください。そして、なるべく早く、1年分を解き、第一志望校の出題の傾向と難易度を体感し、「このレベルに3年の2月当日までに到達するんだ」という決意を固めてください。あとは、シンフォニー創刊号「第一志望合格のためのゲームプラン」のとおりです。もう一度、読んでください。

【3年0(ゼロ)学期】

2022年1月から始まるのは2年3学期ではなく、3年0学期です。第一志望宣言をしたわけですから受験モードに入ります。とは言え、ここまで時点での学習習慣が確立していない方もいることでしょう。「意欲がわかないから実行できない」という考え方では、意欲がわくことなく、したがって実行(勉強)することもなく、3年1学期を迎えてします。「意欲の源は実行」です。できることから始めましょう。できることを実行しているうちに意欲がわいてきます。意欲がわけば実行の質&量が高まります。そして、さらに意欲が高まります。実行と意欲の循環相乗効果です。こうして、勉強の質&量を高めて、3年1学期を迎えるようにしてください。

そして、1年生。

今すぐ勉強時間を増やし、早期に学習習慣を確立してください。学習習慣の確立が早ければ早いほど、合格率が高まるという統計があります。「そんなに早くから勉強して息が詰まらない?」と思うかもしれません、「心配無用」。受験に特化するわけではありません。「文武両道・文理両道」、息は詰まりません。

今更ですが、皆さん。

【文武両道・文理両道】【協働】

文武の「文」は「全教科・科目」、「文理両道」です。文系・理系に特化したものの考え方では、未来社会の複雑な問題状況を解き明かすことはできません。文武の「武」もまた然り。運動部だけのことではありません。文化部、HR活動、学校行事。あらゆる教科外活動を通して、「不確実な時代」を確かに生き抜く「主体的な意志のある自立した『個』」を鍛えます。「複雑な時代」を解き明かす「協働」の前提たる「主体的な意志のある自立した『個』」を鍛えます。ですから息切れはしません。さあ、勉強してください。

【自学自習】

神奈川の高校生の家庭学習時間は、全国ワースト4位です。通塾率については、2017年の中学3年生のデータがありましたが、神奈川は全国トップ。2021年の神奈川の高校生の通塾率は「推して知るべし」といったところです。学校も塾もレッスンです。レッスン(授業)を受けるだけでは力は付きません。トレーニング(自学自習)が必要です。「自学自習」がなければ「力」は付きません。「力」は「自学自習」に比例します。

【I C T】

I C T利活用は手段です。目的ではありません。目的は、「主体的・対話的で深い学び」の実現、思考力・判断力・表現力の育成、言語能力の育成、情報活用能力の育成です。I C Tはシンキング・ツールです。

本校は平成28年度からI C T利活用授業研究推進校の指定を受けていますが、令和3年度が最終年。**令和4年度からは理数教育推進校**の指定を受けます。が、I C T利活用授業は当然ながら継続・発展して行きます。(ちなみに令和4年度入学生(54期生)からは、個人所有(保護者負担等)による1人1台端末を活用した授業が始まります。)

【文理両道2】

さて、令和4年度からの理数教育推進校としての教育活動ですが、これは文理両道の精神に則って推進します。具体には、「総合的な探究の時間」や学校行事を通して推進して行きたいと思います。

最後にもう一度受験生。大丈夫。自分を信じて。大らかな気持ちで、一つずつ、「確かな理解」を増やしてください。